

令和6年度 第1回 島田市認知症対策検討委員会

開催日時 令和6年9月24日(火) 19:00~20:20

開催場所 島田市役所 大会議室西(3階)

出席者 【委員】

島田市医師会	田口 博之(会長)
島田市医師会	小埜 聡司(副会長)
島田市薬剤師会	清水 雅之
榛原薬剤師会	進士 寿子
地域包括支援センター(第一)	守谷 理恵
地域包括支援センター(第二)	大石 鑑子
地域包括支援センター(六合)	鈴木 三奈
地域包括支援センター(初倉)	小笠原 直美
地域包括支援センター(金谷)	杉山 葉子
地域包括支援センター(川根)	鉄 慶晃
グループホーム(ひぎり)	小山 正晃
デイサービス(デイ御仮屋)	杉本 雄
認知症家族の集い(会員)	鈴木 陽子
認知症家族の集い(会員)	戸田 奈津子
島田市民生委員児童委員協議会	渡辺 誠

【事務局】

包括ケア推進課長	大久保 勉
地域支援係長	米澤 美晴
保健師	齋藤 夢歩

1 開会

委員の変更について、令和5年10月1日付けの、人事異動に伴い、初倉中学校区地域包括支援センターの鈴木 桂子様から、小笠原 直美様へと、交代となった。

2 包括ケア推進課長あいさつ

本日はお忙しい中、令和6年度 第1回認知症対策検討委員会にご出席いただき、ありがとうございます。

また日頃は、島田市の介護保険事業をはじめとする高齢者福祉施策にご理解ご協力をいただき、重ねてお礼申し上げます。

さて、本日は、「しまだ認知症ケアガイド」の内容について意見交換をいただきます。国では市町村における認知症ケアパス(ケアガイド)の作成率100%を目標としており、全国的には令和4年の時点で作成率は93.7%とでした。本市では、平成27年に作成、令和元年に最終更新を行っており、今年度は内容の一新を予定し

ております。認知症ケアガイドは認知症発症予防から人生の最終段階まで、どんなサービスを受けられるのかを知ることのできる大切なツールの一つです。充実した内容にするため、ぜひ皆様の貴重なご意見をお聞かせいただきたくお願い申し上げます。

本日もそれぞれのお立場から活発な議論をお願い申し上げまして、挨拶に代えさせていただきます。本日はどうぞ、よろしくお願いいたします。

3 会長あいさつ

皆様こんばんは。本日はお疲れのところお集まりいただきありがとうございます。よろしくお願いいたします。

4 報告・検討事項

(1) 島田市の認知症施策について・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料1
(事務局) 資料1について昨年度からの変更点・計画などの報告を行う。資料1は今年度新規に作成された第10次島田市高齢者保健福祉計画の概要版に合わせて作成してある。

(72) 認知症サポーター養成事業。こちらは各地域包括支援センター様のご協力をいただき、一般市民や小学生・中学生・事業所の従業員などを対象に認知症サポーターの養成を実施。校長理事会にて認知症サポーター養成講座の受け入れ依頼 8月末に実施。また、昨年度市独自での開催を行ったところ定員(40名)を超過するお申込みがあった。今年度も実施希望のお声をいただいております、今年度中の実施を予定している。

(90) 認知症地域支援・ケア向上事業。第10次島田市高齢者保健福祉計画のとおり、今年度はチームオレンジ連絡会の実施を予定。市内6か所あるチームオレンジが集まり、情報共有を行うことで、活動の推進を行う。

認知症本人ミーティングは昨年度2回実施。今年度は計3回の実施を予定。既に1回目を実施し、2名の当事者に参加をいただいた。普段からかかわりのある方のご参加だったが、本人ミーティングでは普段からはイメージができないほど饒舌に話をしてくださる様子が見え、当事者同士の集いの重要性を改めて感じる場となった。

昨年度から本格的に認知症新薬の「レカネマブ」の使用が進められてきているが、市では今回、市内の医療機関を対象にレカネマブの使用状況や体制構築についてアンケートを実施した。今後、同意をいただいた医療機関のアンケート内容を市内地域包括支援センターと共有していく予定。

新規事業として、認知症高齢者等位置探索サービス利用補助金交付事業を実施しており、徘徊高齢者等事前登録事業に登録された方がGPSを利用する場合に補助金を交付するもの。対象となるGPSなどに関しては包括ケア推進課までお問い合わせをいただきたい。

(2) 地域包括支援センターの認知症施策に関する取組・・・・・・・・・・資料2
各包括から説明

(委員) 当センターでは認知症にやさしい地域づくりを目標に、様々な世代の認知症サポーターを養成するため、今年度は島田樟誠高校2年生の家庭科の授業で全8クラスに認知症サポーター養成講座を10月から実施予定。この高校ではボランティア活動にも積極的に取り組んでおり、地域とつながりを大事にしていきたいとの声もあるため、今後認知症カフェ等にも参加していただき、つながっていったら良い。また、民生委員様を対象にも実施予定。2点目、認知症について学んだり、認知症の人や家族が参加できる居場所づくりに対しての検討を行っていく。チームオレンジしまいち連絡会の開催。他機関と協働したオレンジカフェの開催として、今年度からさんなか+カフェを7月にアポロン中溝で開催した。その際にはフルートの生演奏を聴きながらみんなまで話をを行った。2回目を11月に開催予定。また、最近若年性認知症の方の相談や軽度認知症の方の相談が増えてきた。予防啓発の中でMCIの段階で予防していこうという内容の啓発活動を行っていききたい。

(委員) 認知症の理解を促進し、誰もが安心して暮らすことのできるまちづくりを整備することを目標にしている。チームオレンジきずなと共同で認知症カフェを立ち上げたいとの話をしていたが、きずなのメンバーが主に第一生命会社の方であり、本業が忙しいとのことで、立ち上げの話が流れてしまっている状態。立ち上げを考えていた事業所には前向きな返事をいただいていることもあり、施設と協働して立ち上げが出来たら良いと考える。

認知症を正しく理解してもらうための認知症サポーター養成講座を実施していくという目標の元、5月に薬剤師の先生向けに1回実施。10月上旬に大津小学校での開催を予定している。小学校での開催を定期的に行っていたが、4年生の勉強で認知症に特化したものではなく、高齢者全体を知りたいという話も出てきている。サポーター養成講座ができない学校もでてしまう状態。

(委員) 地域で認知症の人を支えられるような体制を構築するという目標の元、多世代に正しく認知症を理解してもらう支援者を増やしていくため、認知症サポーター養成講座を5月に六合中学校で実施。今後11月に六合東小学校で実施予定。認知症サポーター養成講座実施後の学生の感想を見ると、いろんな気づきがあり、自分たちも学びがある。若い世代に広げていくことは良い活動だと感じる。

六合のチームオレンジメンバーは施設職員が多く、なかなか活動ができていない。都合が合えば認知症サポーター養成講座を一緒に行っている。

認知症カフェを東町で実施しているが、地域で開催場所まで行けないという声があるため、移動式の認知症カフェの実施を検討している。東町の認知症カフェは毎月実施し、常時26名程度集まる。認知症の夫婦やこれから予防したい人、独居の方などが参加し、人と人のつながりができており、友人ができて良かったとの声もあるため、継続していききたい。

(委員) 多世代に認知症の理解と対応を周知していくため活動している。活動内容として、チームオレンジの活動の支援と認知症サポーターの養成をしていく。2か月に1回チ

ームオレンジの活動支援を行っている。また、認知症サポーター養成講座は初倉小学校は修了し、週明けに初倉南小学校での実施を予定している。その他の学校でも打ち合わせを実施している。

認知症の相談や学習を気軽にできる場所づくりでは、つながる広場くらが子ども食堂と合同で開催していたが、子ども食堂の参加者がメインで高齢者や認知症の方の参加が非常に少ない状況。実際に相談ブースの設置をしたが、相談者は0人だった。そこでチームオレンジメンバーと話し合い、高齢者や認知症の方が気軽に参加できる新たなカフェの立ち上げを検討・準備中。もう一つのはつくらカフェについては3回実施した。

(委員) 若い世代を始め様々な世代に認知症の基礎知識と理解を深め、地域で見守り体制を作るために認知症サポーター養成講座を企業や金谷中学校、金谷小学校を対象に計画している。今年度は五和小学校にて実施した。認知症カフェとして、ひなたぼっこカフェを昨年度から毎月土曜日に実施。今月も実施し、新聞紙を使ったバッグづくりを行った。ひなたぼっこカフェのチラシを薬局様や開業医様で掲示してもらったところ、新規の参加者が増えてきて、今月も3名の新規参加者がいた。認知症予防として、認知症の人も含め、自分の役割を見つけた社会参加の場をつくるため、認知症カフェの一環で花壇づくりを実施。今年夏に花を植えた。また、地域に出向き健康講座よりも、2つのことを同時に行う脳トレなどを行っている。

(委員) 認知症の理解と予防を深めるための周知啓発活動を行い、多世代で支え合う地域づくりを推進することを目標に実施。認知症サポーター養成講座を小・中学校、企業に向けて行っていく予定。小学校4年生に対する認知症サポーター養成講座が学校のカリキュラムや教育方針によって、まだ昨年度・今年度と実施できていない。学校が高齢者全体に向けた支援と言う部分を考えているよう。包括支援センターも学校と一緒に関わりながら、高齢者に対してどう関わっていくかについてを行っていく。地域の居場所や団体に向けて、認知症サポーター養成講座の実施を予定している。MCIの方に対して、機能訓練やしまトレを通じた認知症予防の習慣を定着させるため、医療職や地域の方に対して、ケアマネに対して、連絡会を年3回、多職種連携会も予定している。しまトレや短期集中予防教室についても参加の呼びかけを本人やケアマネに情報共有している。

認知症カフェや運営推進会議について、認知症に関する相談支援を行っていくため、グループホーム汽笛で認知症カフェを実施。今年の6月から山関園製茶にて毎月1回認知症カフェを開催し、マジシャンの方に協力をいただき、参加者と一緒にマジックをしたりワークショップのように地元の方だけではなく観光の方も一緒に実施している。最初7名の参加だったが、最近では15名の参加がある。また、観光に来た小学生や幼稚園生が参加し、多世代交流にもなっている。運営推進会議ではおでかけデイサービスやグループホームなどと連携している。おでかけデイサービスでは、運転や認知症予防に特化したデイの仕組みと一緒に協議をしている。

(委員) やさしいまちづくりというと、認知症になった後に周りがどうサポートしていくかだと思うが、認知症の方のご家族に対しての教育（認知症や対応方法について）は、高齢者あんしんセンターや医療機関が行うものですか？どう行っていますか。

(事務局) 認知症の方の相談は家族からの相談が来るケースが多いが、それぞれの家族がどこの機関の窓口で相談に来るかによっても変わってくる。

(委員) 困っている方のサポートや対応方法についてなどは地域包括支援センターからもアドバイスを行う。その後ケアマネジャーが付くとケアマネジャーと一緒に地域包括支援センターが支援する場合もある。まだ診断を受けていないケースは医療機関につなぐなど、地域包括支援センターだけでなく、他機関でサポートしていく体制になっている。

(委員) ケアガイドは包括的に、遠くから教育し、何かあった場合にこうだよというようになっているが、実際家族がオープンにして良いとなった場合は、家族や周りの人、小中学生などを集めて教育するほうがより具体的に感じる。

(委員) 包括支援センターに来た時に、しまだ認知症ケアガイドを渡して、ご家族に説明するときもある。また家族会への参加を促し、経験者の話を聞いてもらう。地域の認知症カフェに参加いただき、話を聞いてもらうことがある。また、ふれあいなど地域の集まりに地域包括支援センターが出向き、認知症の話をすることもある。

(会長) 本日欠席の松本委員から事前質問がございます。「認知症の初期で日常生活にほとんど支障がない段階で気づき、受診する人がどれくらいいるのか」という質問をいただきました。これは医療機関に対する質問かと思えます。私のところでは、この段階で受診する方はあまりいらっしゃいません。認知症ではないかと心配する認知症恐怖症のような方はいらっしゃいます。またうつ病の疑いで受診された方が認知症の初期ではないかと疑う方はいます。

(副会長) 当院には 2 種類の認知症の疑いの方が来られます。一つ目は自分で認知症が心配ではないかという形で来られる方、このような方は大体 8 割くらいで認知症ではなくうつ病だったり、詳しい検査をする方です。残り 2 割くらいでアルツハイマーの前段階の MCI の方で来られます。もう一つは PSD や不眠・徘徊の症状により、ご家族の方が大変になり来られるパターンです。MCI の人のアプローチとしてレカネマブという注射の治療が出てきました。今まではそれに対する治療薬が無かったが、今は治療薬があるので、そちらの説明をしっかりと行うことが当院としてやらなければいけないと思っています。基準としては MMSE22 点以上、CTRO.5 が基準になっている。そこをしっかりと評価したうえで、認知症疾患医療センターレカネマブの初期の注射については焼津市立総合病院の脳神経内科と金谷平成クリニックの新井先生が窓口になっていただいて、藤枝平成記念病院で行っています。9 月 12 日に志太榛

原地区の協議会がありました。県の方から高齢化率が 30.7%（令和 6 年）西伊豆町や松崎町、川根本町は 50%を超えている。焼津市には 2 つの認知症疾患医療センターがあり、焼津市立総合病院では、レカネマブの点滴が今年の 3 月から開始されており、7 名の方が施行されている。精査している方が 10 名。今後も増えていくであろうとのこと。やきつべの径診療所では、しずケアかけはしなどで、島田市の地域包括支援センターも関係を持っていると聞いています。島田市の認知症対策にも認知症疾患医療センターがかなり貢献されていると感じた。島田でもレカネマブの点滴が投与から 6 か月が経過した維持期間になるとクリニックでも点滴ができるようになり、生駒脳神経クリニックでは準備段階に入っている。6 か月経過したところでは、焼津市立総合病院や藤枝平成記念病院から当院は受け入れができる状態になる。

5 意見交換

（会 長）今回の検討内容は「しまだ認知症ケアガイド」の作成についてです。これまでも島田市では認知症ケアガイドの作成・配布がされてきました。その内容を一新し、今年度中の作成を目指していくため、内容についてこの場で検討を行います。認知症ケアガイドについて事務局から説明をお願いします。

（事務局）認知症ケアガイドとは、認知症施策推進大綱において、市町村の作成率 100% を目指したもので、当市では平成 27 年度に作成された。その後令和元年に軽微な修正を実施済み。資料 3 にも記載があるが、認知症ケアガイドとは、認知症の人の状態に応じた適切なサービスの流れをまとめたものであり、認知症の人やその家族が「いつ」「どこで」「どのような」医療や介護サービスを受けられるのか、認知症の様態に応じたサービス提供の流れを地域ごとにまとめたもの。当市としては、本人・家族はもちろん、これから認知症について知識を得たい人・今後の備えにしたい人など誰でも手にするものとして想定している。目的としては、本人と家族が地域にある資源・支援を知ること、変化に応じて地域にあるものと適時につながり、希望を持ってよりよく暮らしていくこと。

認知症ケアガイドを作成・活用する意義として、認知症の場合、2 つの空白の期間があると言われている。2 つの空白期間とは、①本人・周囲が違和感を感じてから診断を受けるまでの期間 ②認知症の診断を受けてから介護保険サービスの利用までの期間。特に診断直後は今後の生活に対する不安や心配が大きく、社会的な孤立やうつ状態となる懸念もある。認知症ケアガイドは、そういった「今後の生活に対する不安や心配」を持つ認知症の人とその家族に対し、①不安や心配に対する相談先や、仲間と出会える場の情報の提供 ②認知症とともに希望を持って暮らし続けるための支援やサービスの紹介 の際に用いられるもの。

認知症ケアガイドを考えるうえでのキーワードとして、①認知症の人の「容態」②認知症の人が必要な支援 この 2 つを意識しながら、地域にある社会資源の整備状況を本人視点で見えていただきたい。

認知症ケアガイドの内容の案を作成し、手元に配布してある。内容は12ページの冊子を予定。また、8ページ目の空欄の箇所は、医療機関の連絡先を掲載することを検討しているが、まだ各医療機関に連絡・了承をいただけていないため、空欄となっている。

(委員) 細かい部分になるが、P4「症状を抑えること可能な場合があります」→「症状を抑えることが可能な場合があります」、P5「認知しよう」→「認知症」、P9.10 特定検診の棒グラフが重度まで伸びていない

(委員) P9.10 受けられるサービスについて、薬局では認知症の方々に訪問薬剤管理のサービスを行っているが、なかなか薬局で認知症の方に対して何をしてくれるのかという部分の周知があまり進まない現状がある。「訪問薬剤管理」というような具体的なサービス名を記載してくれるとありがたい。また認知症を疑ったり気になったりするときにも国の方で「健康サポート薬局制度」があり、認知症に限らず予防の段階で薬局に相談していただき、かかりつけ医や専門医に受診勧奨を行うという制度があり、島田市内にも3か所の健康サポート薬局があるため、それらの案内もしてもらえるとありがたい。

(会長) P2 認知症の症状について「脳の細胞が壊れる」とあるが、壊れるを他の言葉に変えられないか。

(副会長) 中核症状やBPSDについての表自体も作り替えたほうが良いと思う。中核症状にプラスして、生活や患者の因子があったことで、行動・心理症状が出てくるといった表の方が最近には合っていると思う。「細胞が壊れる」という部分も「脳の萎縮が進む」など…

(会長) 「脳の細胞が変化する」ではどうですか？

(副会長) それでいいですね。もう一つ、始めの平成27年度に作った時に自分も関わっているのですが、その当時は「4大認知症」と言ったが、最近は4大認知症とは言わない。他のケアガイドも見てみたが、まだ更新していないところは4大認知症という言葉も使っているが、新しいものはアルツハイマーや血管性認知症などの割合を示しているものが多い。前頭側頭型認知症は昔は5~15%と言われていたが、今は3%とかになってきている。今はまだ4大認知症と言うのかもしれないが、今後の更新が数年後とかになってくると頻度や割合を書いていくほうが刷新感はあると感じます。

(会長) では4大認知症の部分は「認知症の種類」や「類型」の方が良いですかね。

(委員) アルツハイマー型認知症が「一番多い認知症」と書かれているが、パーセンテージ

で書いたほうが良い。

(副会長) 円グラフの方が良いかもしれません。

(委員) 薬局では在宅でのがん治療の麻薬も含めて薬局の体制に係る周知を整備しており、薬剤師会の HP に一覧がある。どの薬局でどのサービスを受けられるのか一覧になっているので、QR のリンクをケアガイドや包括ケア推進課のホームページ等に載せてもらえるとありがたい。

(委員) 背表紙の重症化予防の点などで、もっとどうすれば書いてある内容のことがクリアできるのか等の具体的なアドバイスがもっと欲しい。「バランスの良い食事を心がけましょう」の内容が具体的ではない。また、しまトレのホームページの QR コードが書いてあっても検索できない。スマホを持っているが、やり方を 3 回くらい聞かないとわからない。若い人は働いているからケアガイドを見ないと思う。使うのはお年寄りだと思うので、もうちょっと検討してほしい。

(委員) 前は MCI が書いてなかったが、今回はわかりやすく書いてくれた。包括支援センターとしても予防や軽度の段階でやっていったほうが良いことを推奨されているので書かれているのが良いと思う。また、ケアガイドは作って終わりではなく、どう活用していくか、広めていくかが大事だと思うので検討してほしい。

(委員) P10 の軽度～重度にどのような症状が出てくるのかというところが、以前夏苺先生の研修を受けた時に志太榛原地区の冊子がわかりやすいと思った。相談に来るが明らかに認知症状が出ているが、相談者に「年寄ってこんなもんだから」と言われてしまふとなかなかその先の話に進めない面があるので、目安になると感じた。しまトレ QR コードになっているが、これを行うのは難しい。包括支援センターの番号を載せてくれると相談に乗れると記載してほしい。

(委員) 家族支援の部分で家族は今後どうしていったらよいかという時に、「認知症家族の集い」と書いてあるが、もう少し具体的にどこに行ったら良いかなどを詳しく書いてあると良いと思った。

(委員) 牧之原市で段階の部分のパンフレットを使ったことがあるが、もっと症状の部分がいろいろ書いてあって、家族に説明がしやすかったので参考にしてください。

(委員) P9. 10 に記載してある以外に、歯科検診や難聴についての予防などについても記載してほしい。軽度の認知症の人がこんな対策をしたら良かったというような事例があれば良い。

(委員) P5 の家族の思いで第 2 ステップの「認知症への理解の不十分さからどう対応して

良いかわからず」とあるが家族の立場から言うと、頭では理解していても怒ったりすることもある。こちらが対応した時の本人の反応に対してもちょっとイライラした時もあったりするので、これは理解の不十分からくるものでは無いので、言い方を変えてほしい。また第4ステップまで行くまでには相当年数がかかる。この1から3ステップを行ったり来たりをする。それぞれのケースはあると思うが、「第4ステップまでは長い時間かかる」ということも記載されると良い。

(委員) 母を10年前に発症し、予防から重度のところまでを見てきた。母を送ることが出来たが、始めから終わりまでの段階を見ていると最後は私のこともわからなくなってしまって寂しいし、この病期になったということは家族としては辛かった。しまトレの話も出ているが、しまトレと居場所の手伝いをしているが、来れる人は来るが、だんだん足が不自由になって来れなくなってしまふ。送迎も責任を持ってないので、しまトレも居場所も人数が減っていることが現実です。

(委員) P5の矢印が一方通行になっているので、行ったり来たりするので修正してほしい。

(委員) 所属事業所が入居施設であるため、症状が進んだ方を支援することが多い。施設職員であっても知らない人は知らないと思う。このケアガイドを今後どう活用していくのかを事業所としても考えていきたい。

(委員) P9.10の文字が細かく見づらい。医療の部分がかかりつけ医が左に寄っているのに、包括支援センターが右に寄っていることが気になる。認知症に限らずとも介護予防においてはどの段階でも包括支援センターに来てもらいたいので、前に置いてほしい。「重症化予防のポイント」を包括支援センターに来てもらわないと詳しくは言えないし、その人の状態によっても受けるサポートが違うと思うので、包括支援センターに来て」と言うように書いてほしい。このケアガイドは誰向けなのか？というところが本人か家族向けなのかなども話し合っ詰めていきたい。

(委員) P9.10が見にくい印象。それだけサポートが増えたのだと思う。P1チェックリストが症状がかなり進行した項目や初期の項目があるが、初期に気にしたほうが良い内容のチェックリストだと良い。

(委員) 話をしていると認知症だと気付かないが、契約書などを書いてもらおうとすると書けなかったりする。模擬契約書のようなものを書かせてみるのも良い

(副会長) 前作った時はケアガイドの目的とかを考えずに作ったんだと思うが、誰目線の者なのかと言う部分で、目的は「本人視点で」というところなので、本人がわかりやすいように作るということが目的だと思う。認知症になりやすい年代は70・80代なので、本人が見る部分はフォントを大きめにして、わかりやすい文章で作ったほうが良い。また、P5の本人と家族の思いと一緒に書かれているが、家族の思いは本人はあ

まり見たくないのではないかと思うと、そこは分けて書いたほうが良いと思う。

(会 長) 本日の委員会で出た意見の中でできそうな部分を積極的にコラボ・連携していただき、顔の見える関係をますます構築していきたいと思います。これまで行ってきた事業の継続・充実をますます図っていきたい。それでは、皆様貴重なご意見をありがとうございました。今回の意見・検討事項をそれぞれの団体に持ち帰っていただき、今後の活動に生かしていければと思う。今後も認知症にやさしいまちづくりを推進するためにご活躍されることを期待する。

6. 閉会

(事務局) 長時間にわたり、熱心な意見交換をありがとうございます。本日の内容をケアガイドの校正の参考にさせていただくとともに、認知症になっても住み慣れた地域で安心安全に暮らせるまちにするため、関係機関と連携して、認知症の正しい知識や理解の普及啓発に取り組んでいきたいと思います。

令和6年度第1回島田市認知症対策検討委員会を終了いたします。委員の皆様長時間にわたりありがとうございました。